

会派視察・研修報告書

会派名 公 明 党

代表者名 寺島 芳枝

1 日 に ち	令和8年4月16日(木)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	インテックス大阪2号館 第1回トレーラーハウスショー 主催：(一社)日本トレーラーハウス協会
3 参 加 者	寺島 芳枝 片山 竜美
4 調査・研修の テーマ	様々な種類のトレーラーハウスの仕様の研究と災害時、平時の活用方法 や設置方法さらに維持管理の課題と「災害車両登録制度」について学ぶ。
5 主な内容	・出展されている様々なトレーラーハウスの研究 ・講演：トレーラーハウス等を災害支援に活用する「災害対応車両登録制度」(講師：益本宇一郎氏) ・合同開催の「防犯防災総合展 2026」「熱中症対策展」の見学
6 所感、提言事項、課 題等	【寺島芳枝】 2022 年、垂井町が災害時に被災地へ迅速に展開できるコンテナホテル「HOTEL R9 The Yard 垂井」と災害協定を締結したことを契機に、移動可能な宿泊施設の防災活用に関心を持ってきました。私自身も宿泊視察を行い、その有効性を実感していたことから、今回のトレーラーハウスショーを視察しました。 当日は内閣府セミナー「災害対応車両登録制度」も開催され、令和 7 年 6 月より運用開始された制度について学ぶ貴重な機会となりました。本制度では、コンテナ型・トレーラー型などの車両が登録対象となり、自治体は災害対応車両検索システム(D-TRACE)を活用して必要な車両を迅速に検索・活用できます。災害救助法に基づき費用の最大 9 割を国が負担する仕組みであり、令和 8 年 3 月末時点で 368 台が登録されています。 民間事業者や個人の協力により、発災直後から被災者の生活環境を確保できる点は大きな意義があり、今後は制度の周知と活用が重要であると感じました。トレーラーハウスは機動性と高い技術力を兼ね備え、多様な防災・減災分野への応用が期待されます。 今回の視察で得た他の防災、減災に資するものの知見を今後の政策提案に活かしていきたいと思います。

	【片山竜美】 ・たくさんの災害時に活躍するトレーラーハウスを見ることができた。居住性、快適性など工夫を凝らしており、特色のあるトレーラーハウスばかりであった。 ・中にはトイレ専用もあり、汚物の処理などに工夫があった。 ・トレーラーハウスを自治体が導入するにあたり、価格や設置場所、さらには輸送するためのけん引免許の取得も必要で課題が多い。 ・益本氏の講演では、「災害対応車両登録制度」についての解説があり、これを自治体としても積極的に参画するべきと思った。「ぜひ自治体も民間も登録し、費用も国が9割負担であり、躊躇なく活用してください」とのことであった。 ・合同開催の「防犯防災総合展 2026」「熱中症対策展」もたいへん学ぶべきものがあった。 ・屋根にはるシートで建物の温度を下げる商品や体温を下げる効果のある商品など、学校や公共施設で活用できそうなものがいくつかあった。 ・こういった展示会に自治体職員の皆様も参加すると、もっと視野が広がると思う。適時、職員にも提示していきたいと思った。
7 写 真 等 ※視察の場合は必須、研修の場合は任意	  

※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。